

# 地域のシンボル“眉山”

岩野田北まちづくりサロン資料 7.6.15

私たちが毎日、目にする眉山。鳥羽川と並ぶ、栗野のシンボルと言えます。

一方、どちらも、親しむことのできる環境が整備されているとは言えず、まちづくりに十分生かされていないのが実情です。

改めて、地域にとって、岐阜市にとって、まずは眉山が有する価値について、考えてみましょう。



標高 231.18m の山頂に前方後円墳・鎧塚古墳を抱く眉山。その名の由来は、江戸後期の学者、頼山陽が美濃の門人を訪ねた帰路、栗野西の庄屋の河野家に立ち寄った際、「眉を引いたように優美な山容」と名づけたと言われています。

鎧塚古墳は、江戸末期の盗掘に際して、鎧が出土したことに由来。昭和 44 年 12 月 16 日に岐阜市史跡に指定され、その案内板に築造時期は、4 世紀後半とあります。

今のように樹木でおおわれていない時代には、地域住民は、毎朝見上げては礼拝していたのではないかとされます。

南麓には、7 基の岩崎古墳群があり、ほとんどが大正末期までに消滅し、円墳・6 号墳は、昭和 38 年まで残り、1 号墳のみ現存(市指定史跡)。

頂上には、昭和 54 年に岐阜県が設置した地上高 20m の中継所鉄塔(NHK)と、ドコモの通信施設があります。



▲眉山の航空写真と鎧塚古墳(岐阜市史資料編より)



▲岩崎 1 号墳

## ●歴史的価値

全長 82m の鎧塚古墳は、岐阜市の北部・武儀郡・山県郡などを支配して大和朝廷に仕えたとされる牟義都(むぎつ)の墓とされ、岩野田、常磐、鷺山、黒野、三輪など近くの古墳群は、親族・同族の墓と考えられています。前方後円墳は、雑木により見通しが悪く全体像がつかめません。

## ●観光資源としての価値 徳島市の眉山に引けを取らない秀麗さ?!

徳島市の眉山は、市のシンボルとされ、有数の観光地になっています。

「眉のごと雲居に見ゆる阿波の山」と万葉集にも詠まれたそうで、山頂一带は眉山公園として整備され、市街はもとより天気の良い日には淡路島・紀伊半島までもが一望できるとのこと。また、桜や紅葉など四季の移ろいを感じられるそうです。

標高 290m ですが、徳島市中心街に近い東部にある標高 277m の峰が山頂と呼ばれ、眉山ロープウェイ、眉山ドライブウェイが通っています。



▲阿波おどり会館5階(眉山ロープウェイ山麓駅)から眉山山頂へ約6分



▲山頂展望台

眉山は、立地条件に違いはあるものの、再整備計画が発表された畜産センター公園を、麓に擁しています。地域全体を里山公園エリアに位置付けることが期待されます。

全長 115m の琴塚古墳に次いで、市内 2 番目の規模(山頂の前方後円墳としては、県内最大?全国的にも山頂の前方後円墳としての情報整理はなされていないことから、調べてみる価値がありそう)を誇る鎧塚古墳などの歴史資源、昔話(五郎吉岩)にも恵まれています。

山頂への道は、ドコモの電波塔管理のための自動車道がありますが、一般車は入れません。眉山の「美しさ」や「価値」を地域で共有・発信する一方、まずは、山頂部分、鎧塚古墳の整備が求められそうです。



▲眉山にまつわる昔話「五郎吉岩」